

2020年度 社会福祉法人 高崎福祉倶楽部 事業計画

1. 基本方針

基本理念である「生きる喜びを支えるケア」と「その人らしさを大切に一人ひとりの生活を支援する」の実現のため、今年度もサービスの質、生活環境の充実に努めます。また、地域貢献事業を継続し、地域に開かれた施設運営をめざします。

2021年介護保険制度改正の動向や「深刻な人材難」「サービス対象者の減少」「大規模化」など、課題は山積しておりますが、あるべき姿なすべきことを忘れず取り組んで参ります。

- ① 介護サービスの質の維持と人材育成
 - ・ Ict 導入による情報の共有化と業務の分業化
 - ・ 資格取得支援と内部研修の継続
 - ・ 有給休暇の計画付与（年 10 日以上の場合 5 日）
 - ・ 多様な人材の活用（外国人技能実習生や留学生を含む）
- ② 地域貢献等
 - ・ 地域活動（介護予防体操）の継続
 - ・ ホームページリニューアルによる広報の強化

3. 予算（借入金償還を含む）・事業別計画 ※別紙参照

4. 会議計画

- | | | |
|-------------------------|-------|----------|
| ① サービス責任者定例会議 | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |
| ② 安全衛生委員会・危機管理委員会（①と同日） | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |
| ③ 給食会議 | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |

5. 研修計画

- | | |
|------------------------|-------|
| ① 職員研修 | 月 1 回 |
| ② 看取り・喀痰吸引の研修 | 年 1 回 |
| ③ 感染予防、事故、身体拘束防止に関する研修 | 年 4 回 |
| ④ 外部研修への参加（※認知症の理解等） | |

6. 改修・購入計画

- ① 厨房設備機器入替
- ② 1、2 階の LED 化
- ③ 車輛の購入（日本財団に助成の申請をする）

7. 職員採用計画

- ① 介護福祉士養成校や社会福祉協議会、ハローワーク、派遣事業者との連携、シルバー人材、有償ボランティア等の活用
- ② 外国人技能実習生の受入れ

8. 介護報酬改正 2021 年改正の動向とそのポイント

2020年度 特別養護老人ホーム悠ゆう 事業計画

昨年導入した介護ソフトを十分に活用し施設サービスの充実に繋げる。

◇ 特養・短期入所

< 目 標 >

人材育成とICT活用による情報の共有化

< 実施計画 >

1. 役割分担と連携によるチームケアの構築
 - ①ケアプランの共有化
 - ②業務内容の見える化（ICTの導入等）と具体的な役割
2. 専門的なケアの理解と実践

機能訓練

< 目 標 >

生活リハビリの充実

< 実施計画 >

1. 残存機能維持を目的としたレクリエーションの実施
2. ご利用者の生活歴を踏まえた住環境の整備と日常生活の充実を図る
3. 口腔機能向上のための口腔体操を実施（誤嚥・インフルエンザ予防）

給食

< 目 標 >

食べる楽しみと経口摂取の維持

< 実施計画 >

1. 食欲を刺激する献立、食事形態の工夫による経口摂取の維持に努める
 - ①季節感や生活感のある食事の提供
2. 栄養ケア計画に基づき経口摂取機能の適切な評価
 - ①多職種による評価を基にした嚥下調整食の提供

健康管理

< 目 標 >

健康の維持と感染症の予防

< 実施計画 >

1. 健康管理と観察のポイント、疾病と服薬（皮膚の保湿）についての周知
2. 看取り、褥瘡予防、感染予防等の施設内研修の実施
3. 事故の予防と事故発生時の対応の周知
4. 職員の健康診断を実施（腰痛予防対策を含む）

デイサービスセンター青葉 事業計画

「住み慣れた地域で暮らす」を目標に通所介護、介護予防・総合事業を提供します。

< 目 標 >

ご利用者一人一人に寄り添い、地域での暮らしが維持できるよう支援する。

< 実施計画 >

1. 軽費老人ホーム、短期入所事業、居宅事業者やあんしんセンターと連携し新規利用者を獲得する。
2. 地域における認知度アップを目指し積極的な情報発信をする。
3. 地域活動「歌って笑って健康体操」の継続により地域住民との交流をはかる。
4. 手作り品の展示（販売）等による生きがいづくり。

ケアプランセンター悠ゆう 事業計画

「住み慣れた地域で暮らす」を目指し、心身の状況や生活環境に応じ、適切な保健医療ならびに福祉サービスを総合的かつ効率的に提供できるよう努めます。

< 目 標 >

ご利用者の立場に立ち分かりやすい説明を心がけ、新規利用の獲得に努めます。。

< 実施計画 >

1. 近隣の病院（医療連携室等）、地域包括支援センターや地域の社会資源を活用したネットワークの構築、新規利用者の確保（稼働率の維持）に努める。
2. 地域のイベント等に積極的に参加し地域交流を図るとともに、事業所の存在をアピールする。
3. 常に最新の情報を得るため研修に参加し、事業所間の情報共有化を図る。

ケアハウスグリーングラス 事業計画

その人らしく自律した生活ができることを念頭に置き、自助、互助、共助及び公助の適切な組み合わせに留意し支援します。

< 目 標 >

ご利用者相互の親睦をはかり、参加しやすい行事を企画し、意欲や体力の低下防止に努めます。

< 実施計画 >

1. 個々の心身状況の変化に迅速かつ的確に対応するためご家族や担当ケアマネとの連絡、情報の共有化を図る。
2. 健康チェック（血圧、脈拍、体温、体重の測定）の月1回以上の実施と年1回以上の健康診断を促す。
3. 買物への支援（近隣の量販店、ドラッグストア、出張販売等）。
4. 介護予防の体操や頭の体操による健康寿命の増進をはかる。
5. 施設内での利用者交流の機会をつくる。（1Fパントリー内での簡易販売所とカフェの実施）

2020年度特別養護老人ホーム 悠ゆうみなみちよう事業計画

悠ゆうみなみちようの事業運営は、基本理念に基づき、利用者の喜びを支えるケアの提供、利用者の尊厳を守り、個別性を重視し、地域の方々に信頼される施設づくりを継続して推進していきます。引き続き人材確保に努め、稼働している特養ユニット（6ユニット）を満床とし、さらに稼働できていないユニット（1ユニット）の再稼働を目指します。2018年12月より再稼働した短期入所事業については、新規利用者獲得を目指します。

特養・短期入所

< 目 標 >

チームケアを実践

～チーム協働でご利用者が安心・安全に楽しく生活できるように支援する～

< 実施計画 >

- 1 入居者の生活習慣や生活様式を把握し、個別のニーズに沿った支援を行う
- 2 事故や不安のない（安心・安全・楽しい）生活を実現する。
- 3 部署内及び各職種間で情報共有と連携を徹底し、チームケアを実践する。
- 4 サービスの平準化と質の向上のため職員研修や勉強会を実施する
- 5 地域との連携を密に行い、ボランティアを積極的に受け入れる

機 能 訓 練

< 目 標 >

生活リハビリの充実

< 実施計画 >

- 1 個別に状態の把握に日々努め可能な限り自立支援を行う（1）自立支援を職員が理解し実践する。（2）ケアプランに位置づける。
- 2 余暇活動を充実させ日常生活に機能訓練を取り入れる（1）午前・午後の活動を日課に位置づける。（2）機能訓練加算の体制を整える。
- 3 日常生活に即した訓練（起立、歩行等）を行い、残存機能を維持する。（1）生活リハビリ、自主訓練プログラムをケアプランに位置づける。

給 食

< 目 標 >

食べる楽しさへの工夫と経口摂取の維持

< 実施計画 >

- 1 摂食意欲が維持できる食事を提供し、経口摂取の維持に努める (1) 医務、ユニット等チームケアの実施
- 2 誤嚥や誤飲等の事故の予防 (1) ソフト食等嚥下食の提供 (2) 状態変化による食事形態の変更にユニット、医務と連携し、迅速に対応 (3) 食事変更に伴うカンファレンスへの参加
- 3 入居者とのふれあい (1) 食事状況の立ち会い評価 (2) 定期的な嗜好調査の実施
- 4 適切な食事提供への研究 (1) 嚥下食の研究 (2) 栄養価主体メニュー (3) 地域食材の提供
(4) 季節感や生活感のある食事の研究

医 務

< 目 標 >

健康維持と感染症予防

< 実施計画 >

- 1 入居者の健康管理及び自立支援 (1) 健康管理 (2) 自立支援
- 2 ショートステイ入居者の健康管理 (1) 利用中の健康管理・相談と薬剤管理。
- 3 看護・介護の質の向上 (1) 職員への疾病と服薬についての研修の実施。(2) 看取り・褥瘡予防・感染予防等、施設内研修会の実施。(3) 事故予防と事故対応の研修の実施。
- 4 職員の健康管理 (1) 年2回の健康診断の実施。

2020年度目標 (2020年4月1日～2021年3月31日)

特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月別稼働率 (%)	84.3	84.3	84.3	84.3	84.3	84.3	84.3	84.3	84.3	84.3	84.3	84.3

短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月別稼働率 (%)	21.3	20.6	21.3	20.6	20.6	21.3	20.6	21.3	20.6	20.6	22.9	20.6